



2006年(平成18年)3月7日
 発行:鎌ヶ谷市国際交流協会
 〒273-0195 鎌ヶ谷市初富928-744
 TEL 047-445-1141 (内550)
 FAX 047-441-9400
 http://www.kifa.gr.jp

身近な暮らしの
 話題を英語で
 語り合う

『KIFA英会話サロン』開く!

◎ルールは “English only”

「外国人を交えて英語で会話を楽しみませんか!」というコンセプトで、初の企画『KIFA英会話サロン』が、2月26日(日)に開催された。

会場の中央公民館4Fには、英語力に自信のある人、海外生活体験のある人、ちょっと不安があるが自分のレベルを試したい人など、このサロンに応募した30人が集まった。

午後1時30分、開会。KIFA会計・小栗淑子さんと波多野勝夫研修部会長が英語で挨拶。次に司会より、今回の英会話サロンのルールが説明される。



トーマス・ダットマンさんを囲んで
 “Holiday”について熱く語り合う

外国人パネラーを囲み50人が “Holiday, Food, Education” を熱っぽくしゃべった!

マを設定した。①Holiday②Food③Educationの3題。

このテーマ順に、KIFAが招いたパネリスト、①トーマス・ダットマン(イギリス)、②チェネディ・ジェームス(同)、③デリック・スミス(カナダ)の3氏にプレゼンテーション・スピーチをしてもらった。

このあと、参加者30人が3つのグループに分かれ、KIFAボランティア20人も加わり、それぞれが1人のパネリストを囲みフリートーキングが始まった。

よどみなく自己紹介する人。つかえて必死に言葉を探す人。なるほどとうなずく人。パネリストもやさしい、分かりやすい英語でゆっくりしゃべる。時々、ジョークも交じり、みんなで笑うシーンもあり、楽しそうだ。

英語でお互いの文化や習慣を語り合うひとときは、なごやかなうちに終わった。「意外に私も英語力があつた」「外国旅行しても通じるかな」「ぜひまたこういうサロンを開催してほしい」などの声に参加者から挙がった。



地図を書いてカナダの
 教育事情を説明する
 デリック・スミスさん



3人のパネリスト

これからのこの場での会話は、すべて“English only”であることは言うまでもない。

今回の『英会話サロン』では、身近な暮らしの話題を設定して、参加者が気楽に会話に入り込めるよう、テー

受講生の1年間の努力に

◎2005年度・KIFA語学研修講座「閉講式」



外国人講師の皆さん、1年間ありがとうございました

◇総数百人の受講生と講師が一堂に会す◇

2005年度のKIFA語学研修講座の閉講式が、2月5日の午後、市総合福祉保健センターで挙行されました。すでに昨年夏、15回の講座を終了したハングルを除いて英語A、英語B、スペイン語、中国語の外国語4クラスの受講生50余名と外国人講師が出席しました。これに日本語講座の外国人受講生とボランティア講師を加え、総数百人近くの方が一堂に会し、この1年間の学習努力を讃え、学習成果を発表しました。

本年の語学講座が04年度と比較して変わったのは、大きく2点あります。1つは、各講座の会場、曜日・時間を大胆に再編成したこと。これによって、「これまで時間や曜日の都合や地理的問題で機会に恵まれなかった人たちが受講できるようになったメリットがあります」(波多野勝夫研修部会長)

もう1つは、「お隣の身近な言語を学んでみたい」多くの会員の要望で、ハングルを新講座に採用したことです。韓流ブームとはいえ、熱心な受講生を輩出し、そのパワーは今年5月からの06年度語学講座では、通年の講座に「昇格」したほどです。

◇皆勤賞の皆さん、本当に頑張りました◇

岡本靖子KIFA会長からは、閉講式の冒頭、次のようなお祝いと励ましのあいさつがありました。「継続は力なり、です。さらにステップ・アップして、国際交流活動に関わるきっかけにしてください。KIFAのボランティアにもご参加を要請します」

続いて、皆勤賞の表彰があり、次の6名(敬称略)が受賞しました。皆さん、本当に頑張りました。

〔英語A〕千葉つや子、柳川美郷、小池昌代

〔スペイン語〕鈴木邦生

〔中国語〕内山幸子、倉垣正子

語学講座の各講師から、30回の講座を終えた感想をそ

れぞれに披露してもらいました。

◇“チリも積もれば山となる”の気持ちで◇

「市内の小中学校で教えているけれど、大人は初めてなので緊張しました。でも、一緒に勉強し、日本のことを色々教えてもらいました。私も成長できました。ありがとうございます」(英語A/アリシア・ブラントさん)

「私は日本語が話せませんが、受講生たちはベストをつくして英語を学んだ。だから、この1年間英語を教えていて楽しかった」(英語B/ジェシー・ナイカネンさん)

「暑い時も寒い時も、勉強してくれてありがとう。素晴らしい受講生と一緒にスペイン語とともに、ラテン・アメリカの文化についても勉強できてよかった」(スベ

歌う。奏でる。朗読する。

意表をつく面白さ〔スペイン語〕

手作りの紙芝居『TARO URASHIMA』を、受講生全員がスペイン語で熱演。へたうまの絵に親しみがあり、日本人なら誰もが知っているおとぎ話のコラボレーションは意表をつく面白さがあった。パトリシア・岡田先生の日本語同時通訳もほのぼのとしていた。

観客が絵を見て、セリフを聴いているうちに、つつい舞台の近くまでにじり寄るほど異色の発表劇だった。



童心に帰ってステップ〔英語B〕

おなじみの『オクラホマ・ミキサー』のメロディーに合わせ、ステップを踏んでステージに登場。前の人肩に手をおき、童心に帰ってちょっぴり照れながらアリシア先生も踊る。

そして、スコットランド民謡『auld lang syne(蛍の光)』を原語で荘厳なムードのなか全員合唱。最後は『線路は続くよ』を、これも英語で元気に合唱。汽車がトンネルに入るように舞台を去る、粋な演出だった。



学習成果あり

なごやかに挙行◎

イン語／パトリシア・岡田さん)

「多くの年配の人の熱心さ、真面目さに感激しました。尊敬します。これからも“チリも積もれば山となる”の気持ちで、粘り強く学習を続けることが大切だと思います」(中国語／范曉耘さん)

講師の皆さんの1年間のご指導に感謝し、花束が受講



日本語ボランティア講師の人たち

生から贈呈されました。心からお礼申し上げます。

閉講式のセレモニーの最後は、日

2006年度KIFA語学講座 (予定)

講座名	講師	曜日・時間	会場
英語 A	未定	木 13:00~14:30	東初富公民館
英語 B	アリシア・ブランド	火 19:30~21:00	鎌ヶ谷コミュニティーセンター
中国語	范曉耘	金 10:00~11:30	南部公民館
ハングル	イ・ヒョンジュン	水 13:00~14:30	中央公民館

*各1クラス。2006年度からスペイン語は休講、ハングルは通年で開講します。日程、会費、応募方法などの詳細は、4月15日の『広報かまがや』に掲載予定。

本語講座のボランティア講師12名が壇上で紹介されました。この日に出席できなかった講師を含めると全員で28名いて、来日直後の鎌ヶ谷および近在の外国人に日本語を教えています。ボランティアを代表して遠藤尚子さんは、つぎのようなあいさつをしました。

「毎週火曜日の夜、年間40回休まず日本語講座を開いています。日本語を習いたい外国人がいましたら、ぜひ私たちの教室を紹介してください」

そして、10分間の小休止のあと、各クラスの日頃の学習の成果を発表するパフォーマンスが始まりました。

踊る。みんなで楽しんだ語学講座発表会

「10億人の愛唱歌」〔中国語〕

演題はふたつ。まずは唐詩『春暁』を、80歳を超えた学徒・穂刈栄次さんが洪く詩吟でうなる。しゅんみ〜ん、あかつきを〜。このあと、受講生全員が原語の中国語で朗読する。

つづいて、千昌夫が昭和52年に歌って大ヒットした『北国の春』を全員中国語で斉唱する。これは、中国でも大人気となる、「10億人の愛唱歌」でもある。范先生も、故郷・中国を思い浮かべ、歌った。



メレンゲで熱気を吹き込む〔日本語〕

「マツケンサンバ」で、去年は大喝采を浴びたが、今年は「メレンゲ」で会場全体を沸かせた。その前に中国の若者がフルートでSMAPの『世界に一つだけの花』を演奏する。しみじみ聴かせる音色だ。

次の「メレンゲ」は、発表会のフィナーレを飾るにふさわしい圧倒的な熱気を全員に吹き込む。舞台ではボランティア講師も外国の受講生も手を打ち、足や腰を回して踊りまくる。最後は見る側も踊る側になって踊りまくった。



先生はギターリスト〔英語A〕

このクラスは総勢18人の大デリゲーション。舞台が狭く見えるほど横に広がった受講生の前に、ジェシー先生がギター片手に颯爽と登場。先生のギター伴奏に合わせて受講生全員が歌う歌は『COUNTRY ROAD』である。このウエスタン・ソングは先生のお気に入り。なぜなら、先生は1年まえに米国・ミネソタ州から来日したばかり。題名のように「故郷へ帰りたい」と思う時に、口ずさむという。



鎌ヶ谷市国際交流協会 (KIFA) の会員に、あなたもなりませんか!

KIFAは、文化・教育・スポーツを通じて幅広い分野の国際交流をめざしているボランティア組織です。興味のある方なら、どなたでも入会できます。お好きなイベントへの参加のみも可能ですし、活動を企画・運営して下さる方も募っています。

*事務局は鎌ヶ谷市役所の3Fにあります。

月～金 9:00～16:00 いつでも気軽に、問い合わせや加入手続きなどお待ちしております。

TEL 445-1141 (内) 550

FAX 441-9400

特集 KIFAで 日本語を学ぶ

外国人が語る

ここに登場する5組の外国人は来日直後、KIFAの日本語講座で日本語を学んだ(学んでいる)人たちである。就労のため、進学のため、遠く母国を離れてやってきた人たちにとって、日本とは？日本語とは？ いったい何なのか。戸惑い。不思議。カルチャー・ギャップ。さまざまな思いがあるだろう。そこで、普通の隣の外国人である彼らが日本の生活で感じた率直な声を聞いてみた。今後のKIFAの国際交流活動の参考になるヒントがあるのではないかな。

外国人の交流センターが欲しい

シリピさん (バングラデシュ)



'05のKIFAパーティで

来日2年、鎌ヶ谷在住。船橋の市民文化ホール近くで兄が営むインドカレー店を手伝っている。20代半ばの陽気な女のこだ。日本語は来てから初めて覚えた。「は、が、に、などの使い方がむずかしいね。正しい話し方をマスターするた

めに、KIFAの日本語講座に通っています。みんなの話しを聞いていると勉強になります」

「私はいま、ひらがなは読めるけど、まだ漢字が読めません。そのために道に迷うことがある。でも日本人は親切で、尋ねるとやさしく教えてくれる」

「ノーズとフラワー、どっちもハナでしょ。アタマオカシとオイシイオカシ、どっちもオカシというしね。食器のハシも渡るハシも同じハシ。外国人は困っちゃう」

彼女が日本でイヤなのは、地震が多いこと。怖くて、すぐ外に飛び出すという。日本で行きたいのは、広島の実験ドーム。バングラの学校の授業で知った場所だ。

「外国人が気軽に交流できるセンターが鎌ヶ谷にあるといいね。日本人も含め友だちをいっぱい作りたい」

鎌ヶ谷の生活に慣れてきました

小山田ジェンマさん (フィリピン)



浅草で折り鶴をつくる

4年前から鎌ヶ谷に住んでいる。日本の男性と結婚。いま、日本語の漢字が読めるように勉強中。

昼間の日本

語教室とKIFA日本語講座で日本語を習っている。「ボランティアの先生たちがとても親切で、勉強に行くのが楽しみです。あまり一人で外出しないので、いまは先生と教室に来ている人たちが、一番の友だち」だという。

「駅で切符を買う機械が漢字ばかりで困っています。自動販売機にも英語のものがあるといいな。市役所などで書類を書くときも、英語で書かれた見本カードみたいなものが備えてあれば落ち着いて書けると思います」

校外学習の浅草散策では、フィリピンにないお寺や神社が見られて楽しかったという。境内で外国人向けに開いている千代紙の折り鶴が気に入って、30分近くも熱心に指導を受けていた。近く父母に会いに帰国するお土産に日本人形を買った。

日本の大学で音楽を勉強したい

王天任さん (中国)



中国の東北地方(旧満州)、黒龍江省ハルビン出身。3年前に来日した母親(中華料理店勤め)をたずねて来て、まだ3カ月。このほど東京の音楽系の大学を受験したが、残念ながら不合格の18歳である。

「もちろん筆記試験は日

本語だから私には不利だけど、それは仕方がない。同じ漢字の国だから日常生活には不便はないが、読み方や意味の違うケースがいっぱいあります」

たとえば日本語の「手紙」は、中国語ではトイレトペーパー。「湯」は、スープ。これには面食らったという。これからは浪人して、アルバイトしながら再度、大学に挑戦する。そのためにはKIFAの日本語講座で日本語を学習しなきゃと、元気いっぱい

「できればクラシックのフルート奏者になりたい。これがボクの夢。お父さんは中国に残っているけど、一人っ子のボクに対しては理解があると思う」

日本料理はお刺身以外、なんでも好きだという。「日本は物価が高い」のが、18歳中国青年の目下の悩みだ。

「私は日本をこう思う」

「キムチづくり」を教えた

ユン・ヒョンキョンさん(韓国)



鎌ヶ谷には12年住んでいる。エレクトーン教室を開き、希望者にはハングルも教えている。

「韓国の人たちは心が温かく、ピュアにストレートに気持ちを伝えてくる。そのことが韓国ドラマがいま人気になっているのでしょう。

日本人の心に何か熱いものを呼び覚ましたことが

“韓流ブーム”になっていると思います」

「日本大好きだけど困ることも多い。若者たちも独りだとい子だけど、グループになるとお行儀が悪くなり、恐ろしくなる。ご近所の生活でもゴミ出しのルールなどうまくいかない。先日の大雪の日に、マンションの前で雪かきをわたし独りでやっていたけど、だれも手伝いに出てきませんでした」

日本食は全部OK。ワサビが大好き。キムチとは違う刺激がたまらない、という。今やりたいことの一番は「キムチづくり」を日本の皆さんに教えた、そうだ。

20代で日本に来たとき日本語はまったく出来なかったが、KIFAの教室に4年ほど通い、漢字も読めるようになった、とふり返るユンさんだ。

サッカー教室を開きたい

フリオ・ペーニャさん(ペルー)
ロサリオ・カメコさん夫妻



ペルー2番目の都市・アレキバが故郷。いまのお住まいは白井市。プレス工場に勤めている。

母国に比べ、日本人は働きもので勤勉。約束や社会ルールがちゃんと守られている。2人の子どもの教育とか将来のことを考え、社

会環境の行き届いている日本に来た。

「KIFA日本語教室で友だちも増えたが、日本語は初め難しかった。マンションの管理規約も通知も分からず、自分の言いたいことをいうのに困りました」

行政上の手続きや検診の申し込みなどの際、もっと多言語の(英語はあるがスペイン語はない)説明書や見本があるといい。街の案内標識も多言語で表記してもらいたい。家族の会話はスペイン語。外に出るときは日本語をなんとか使いこなす、という。

いま日本にいて望みたいことは、

「外国人が持っている能力、技術、例えばサッカー、料理、遊び(ダンス)など日本にない文化を市民に伝えたい。そういう機会をつくってもらえればと思います」

日本語ボランティア

外国人受講生校外学習in浅草



浅草寺境内で記念写真

日本語ボランティアによって、毎週火曜日の夜、中央公民館で行われている「外国人日本語学習」教室に通っている、外国人受講生の校外学習「浅草めぐり」が2月11日(土曜日)に行われた。

参加した受講生たちは、東京では最も日本の風情を残す街並み・仲見世通りと浅草寺境内を日本語ボランティ



もじり焼きに挑戦



折り紙に夢中になる

アの講師たちと散策した。

「毎日がお祭り状態」の土産商品が並ぶ仲見世では日本古来の装飾品、着物、人形・玩具など手にとってみたり、講師に質問したり、興味深げに眺めている。

境内に到着、お賽銭をあげ、おみくじも体験。外国人向けに開かれている折り紙屋台では、折り鶴に魅かれ指導のおじさんに熱心に教えてもらっていた。

昼食はもんじゃ焼きとお好み焼きに挑戦。甘味どころではお汁粉も味わい、「浅草体験日本語学習」の一日を終えた。参加予定だった外国人が、仕事や友だちの関係でドタキャンもあり、若干名になったのは残念であった。

(Y・T)

私と韓国 出会いと友情の旅

河内 明延

私と韓国との付き合いは19年前、「ソウル五輪」(1988年)の前年、競技場施設の視察に訪韓したときから始まる。建築関係事業者として東京五輪(64年)当時の施設と比べ、その施設・規模の違いに大変な驚きをもって見学してきたことを、今でも覚えている。

その後、何度か韓国の文化、歴史、習慣に魅せられて訪韓してきた。なかでもソウル、板門店(38度線)、水原(華城、民族村)、大田(93年、韓国初の万博)、釜山(チャガルテ市場、梵魚寺)、慶州(仏国寺、石窟庵)、光州(ワールドサッカー競技場)、霊岩(月出山国立公園)、済州島と各地に足を運んだ。その度にその土地の歴史、文化と人に直接接して交流を図ってきた。いまもそのときの情景を思い、韓国の奥深い文化と風習、受けた歓待に満足している。

我が家にやってきた留学生のふるさと

昨秋、10月20日から4日間の旅は前記の都市旅行とは大変異なり、これまでとは比較できないほど、韓国の人たちと風習に接したものだ。

成田から釜山(金海空港)へ飛び、そこから金昌男先生(金剛大学、日本語専攻主任教授)の車で南海高速道路(10号線)を利用し、昌原→晋州→順天を經由し一般道路、筏橋→高興→道陽に到着するまで5時間を要した。道陽から小さな船に乗り換え20分ほどで着いた島が、今回の旅の主目的地の居金島。

居金島への旅は、私が日本でハングルの講義を受けた金昌男先生の甥で、千葉大学留学生の徐富完さんとの出会いからだった。私は彼が日本留学中の身元保証人として約5年間、自分の息子としてお付き合いしてきた。

昨年2月、徐さんのご両親、妹さん夫婦、祖母が来宅、徐さんの結婚式に参列。6月には金先生と金剛大学総長・金裕赫先生、ほか3人の部長先生が訪日された際、私どもの家に寄ってくださり、家族ともども食事会を催した。日本の家庭を見てもらい、日本料理を頂きながら、終始和やかに楽しく談笑し、短い時間であったが友情を深め合った。

徐さんは私たち夫婦を日本のお父さん、お母さんと呼び、どこへ行っても大切にしてくれた。私の孫たちも「お兄ちゃん」と慕っていた。9月にはめでたく千葉大学を卒業、私たちには残念だが、徐さんは韓国に帰った。そして今回、徐さんの実家(居金島)が新築されたのを機会に、私たち夫婦が新築祝いを兼ねて訪問することになった。



居金島の徐富完さんの家族と一緒に



徐富完さんの家の前で



小さな島の実家で 大きな友情と団欒

徐さんの家は、小さな島に似合うすばらしい家屋で、ど

の部屋も広く、すべての床が温床(オンドル)になっていて、快適に過ごすことができた。時間の経つのも忘れるほど談笑にふけり、再会の喜びを分かち合った。このときほど、国が違っていても、言葉が完全に通じ合わなくても、お互い誠意を尽くせば人間は素直な結びつきができるものだと強く肌で感じた。

一泊ではあったが居金島での一夜は、私たち夫婦にとって生涯忘れえぬ思い出として、心の中に残っていくことでしょう。

翌朝、私たちは道陽港からフェリーで次の目的地・済州島に向かった。東シナ海を4時間かけてフェリーは済州島の港に着いた。滞在は2泊3日の予定。タクシーで5分ほどのホテルにチェックイン。友人の全在崙さんがロビーにいた。ソウルから空路、済州島まで会いに来てくれたという。お互い手を握り合い、1年3カ月ぶりの再会を果たした。夕食は3人で済州島名物のヘルムトツペギを堪能した。次回はソウルでの再会を約束し、最終便で帰る全さんを見送った。

最終日はタクシーをチャーターし島の南部にある中文リゾート、西帰浦の観光名所、市内の観光名所を回った。中でも島の歴史が分かる「済州島民俗自然史博物館」を見ることができたこと。ますます発展が進む中文・西帰浦地区を見学してきたことが大変な収穫になった。もう一つ忘れたいのは西帰浦でお昼に食べたキジ料理(シヤブシヤブ、刺身)は絶品であり、再度挑戦したいと思っている。

今回の旅行は観光はもとより、「人との出会い」がその国のすばらしさを知り、また分かりあえるものだということを実感する旅であった。(市内・富岡在住)

姉妹都市ワカタネで市民交流と
ニュージーランド生活を体験しよう

鎌ヶ谷市国際交流協会（KIFA）は市の姉妹都市・ニュージーランドのワカタネの一般家庭に、最大4日間ホームステイし、異文化・生活を体験するツアーを企画しました。

市民レベルでの気楽な交流、一般家庭での生活・見聞、日頃鍛えた語学のブラッシュアップなど、ホームステイすることによって初めて体験できることばかりです。観光ツアーとひと味違った、得がたい思い出を作ってくれるでしょう。

今回は4日間のホームステイを中心としたプランと、北島の観光を楽しみたい人のためのプランの2通りを企画しました。ぜひこの機会を逃さず市民レベルでの交流に参加してみませんか。



手芸で交流会も（2001年）

◎募集要項◎

旅行期間：平成18年5月10日（水）～16日（火）7日間
旅行代金：¥150,000（お一人様）

＜この他、空港使用料など別途費用15,000円程度必要になります＞

- *参加申し込みの用紙は事務局にあります。
- *詳細については下記にお問い合わせください。
- *鎌ヶ谷市国際交流協会事務局
- *電話【047-445-1141内線550】

体験者のレポート
ワカタネの思い出

これまでに3回ワカタネを訪ねましたが、訪れるたびサプライズがあり、新しい友人が出来る。3回ともホームステイを引き受けてくれたのはワカタネの郊外で肥育牛の牧場を営んでいるドナルドさん。

自宅はこの牧場の中の丘の上にあり、みかん、グアバ、ぶどうなどの多くの果樹に囲まれている。名前はドナルドさんが大きな声も出さないほどの優しいオジさんで、鎌ヶ谷市から派遣された中学生などの市内案内も積極的に引き受けているので鎌ヶ谷にも多くの友人がいる。

牧場は5つの区域に分けてあり、2～3日ごとに移動させている。道路から300mも離れているので、夜



みかんの実る家から牧場を望む

間はまったく静かで夜明けになると、30羽ほどのクジャクの一家（と思われる）が何処からとなく飛んでくる。少し小柄ながら頭に美しい飾り羽をつけた冠クジャクである。明るくなる前にやってきて牧場には30分もいないで飛び去っていく。

こんな静かなところでは寂しかろうと、同行の仲間がホームステイしている家から招待されたり、ノームさんとベティさん夫妻からも呼ばれた。

2人とも学校の先生だったが現在はすでに退職されており、ノームさんは大のゴルフ好きで2度も脳梗塞で倒れたが、ゴルフをやりたいたっかりに苦しいリハビリを克服し、何とかゴルフが出来るまでに回復、個人用のカートを持ち込んで楽しんでおられた。おふたりは話題も豊富で楽しく、こんな先生から教われれば勉強も楽しいだろうと思った。（KIFA副会長 酒井哲郎）

KIFA 子ども英会話 スマイリーキッズ!

子どものための英会話教室（全15回授業）の生徒を募集します。

☆講師：増田千佳先生 外国人講師の特別授業2回を含む

☆対象学年：小学校1・2年 約10名 10:00～10:50
小学校3・4年 約10名 11:10～12:00

☆期間：6月3日（土）～11月4日（土）全15回
（7月22日～9月2日は夏休み）*初回のみ保護者同伴

☆場所(教室)：まなびいプラザ

☆参加費：会員10,000円 非会員13,000円（教材費、保険代別途）

☆申し込み方法：往復はがきに①住所・氏名（ふりがな）、電話番号、学校名・学年、会員番号（会員のみ）を明記（なお入会希望の方は応募前にお問い合わせください）

☆締め切り：4月24日（月）必着
（応募多数の場合は会員優先で抽選になります）

☆送付先：〒273-0195 鎌ヶ谷市初富928-744
鎌ヶ谷市役所内 国際交流協会（KIFA）事務局

☆問い合わせ：国際交流事務局 電話445-1141内線550

鎌ヶ谷市国際交流会

「日本語ボランティア講師養成講座Ⅱ」

外国人が日本語を勉強するお手伝いをしてみませんか。日本語で日本語を教える方法を学びます。

日時：5月20日～7月22日
毎週土曜日（全10回）
午後2時～4時

場所：中央公民館 定員30名（申し込み先着順）
講師：松本明子さん

受講料：KIFA会員 3,500円
非会員 5,000円（別途テキスト代）

申し込みは4月27日（木）までの平日午前9時～午後4時
鎌ヶ谷市国際交流協会事務局

KIFA外国家庭料理教室

1月29日(日)鎌ヶ谷市南部公民館において、KIFA外国家庭料理講習会が行われた。今回はスウェーデン料理とタイ料理が選ばれた。午前10時から参加者23人はエプロン姿で4つの調理台に分かれ、レシピを見ながら料理に取り組んだ。



エーミルさん

スウェーデン料理



カルナさん

味の組み合わせ!

タイ料理

スウェーデン料理の講師は男性のホルスト・エーミルさん、助手の国枝陽子さん。作るのはジャガイモと玉ねぎの料理とスウェーデン式肉団子、これらは日本でいう「おふくろの味」で、スウェーデンの家庭によりそれぞれ味が異なるという。

タイ料理の講師は斉藤カルナさん、春雨を使った料理2品、蒸し鮭、そしてデザート、それぞれ日本で手に入る食材で、それにタイ国の調味料で味付けする。家庭料理ということで、街のレストランではお目にかかれない日常の料理が出来上がった。

料理を味わい、ワインで歓談

午後からランチ・パーティーに移り、テーブルにはみんなで作った料理が揃い、スウェーデンのお酒・グルッグ(ゆでたアーモンドと干しぶどうを入れ熱燗で飲む)とタイ産のビール2種類、その他ワインなども並んだ。

日本料理とはひと味違った料理をいただきながら、講師の話聞き、参加者はいろいろ感想を述べ合い歓談が続いた。最後にエーミルさんがギターを弾きながら、スウェーデン語でフォークソングを披露し、そしてサルサダンスをみんなで踊った。

初めて参加した人は「たのしかった、もっと何度もやってほしい」。ある人は「タイ料理と聞いてきたが鯛が出てこないのが不思議に思ったが、とても良かった」など好評だった。

2人の講師からも後日、「また機会があればぜひ参加させていただきたいです(ホルスト・エーミルさん)」「いろいろお世話になりました(斉藤カルナさん)」と、大変たのしかった旨のメールが届いた。

KIFA行事のお知らせ

お花見バーベキュー



サクラの花の下、バーベキューしながら外国人、青少年たちと、交流のひと時を楽しみませんか。

日時 * 4月9日(日) 11:00~15:00

場所 * 貝柄山公園(雨天順延)

参加費 * KIFA会員=200円 非会員=300円

希望者は当日、食材、飲み物など各自、好きなものを持参して、会場にお出かけください。

詳細は4月1日の「広報かまがや」をご覧ください。

「KIFA plaza」の編集・広報誌作りに参加しませんか

いま、あなたがお覧になっている会報誌「KIFA plaza」の取材・編集、インターネットホームページの作成などをする「広報委員」を募集しています。

以下のような項目の一つでも関心がある人は気楽に参加し、自分を表現してみませんか。

- ① 広報活動の企画・構成をやってみたい人
- ② 文章を書いたり写真を撮ったりすることが好きな人
- ③ 人物インタビューに興味のある人
- ④ ホームページ作成を経験したい人
- ⑤ 集まってワイワイ話す機会を作りたい人

年に4回発行する「KIFA plaza」をより充実するために、あなたの得意の分野を生かす経験者はもちろん、この機会に未知の分野に挑戦したい人の「広報委員会」への加入をお待ちしています。

希望される方は事務局にお申し出ください。

KIFA事務局

電話 * 047-445-1141 (内線550)

FAX * 047-441-9400

メール * office@kifa.gr.jp

URL * http://www.kifa.gr.jp

編集後記

「KIFA plaza」53号をお届けします。昨年4月から新たに4人の広報委員が加入、それぞれが交流イベントなど、各種の行事に参加したり、研修会に参画しKIFAの諸活動が、ボランティアによって支えられていることの一端を知ることが出来た。それらの取材を通じ十分に広報に生かされたかという、反省することが多い。もっと市民に広く知ってもらおう広報のあり方を考えていきたい。(Y・T)